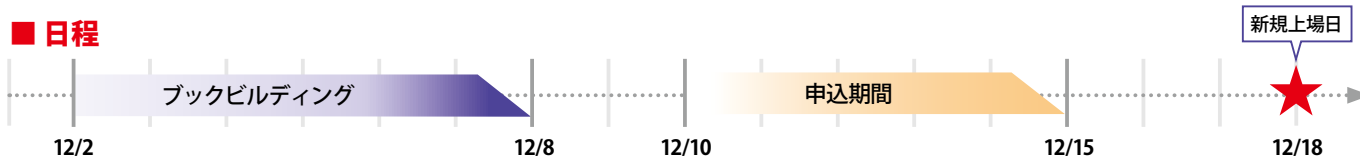


IPO銘柄 gumi (3903・東証上場)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3903	100 株	公募: 150.00 万株 売出: 1,036.72 万株 (OA178.00 万株)	3,000 円 ~ 3,300 円 (105.4 倍)	野村證券



人気ネイティブアプリ「ブレイブ フロンティア」を国内外で配信

■ 事業内容

スマートフォン（多機能携帯電話）向けのネイティブアプリ開発を手掛ける。主力のネイティブアプリでは、「Google Play」や「App Store」などアプリ配信プラットフォーム向けに14年10月末時点で17タイトルをリリース。累計ダウンロード数は2,215万件にのぼる。かつて主力だったブラウザゲームでは、「GREE」や「mobage」など、ソーシャル・ネットワーク・サービスにゲームを供給するが、収益力の高いネイティブアプリの拡大によって構成比を徐々に低下しつつある。この他、パブリッシングサービスとしてゲームコンテンツの多国展開機能を供給するサービスも展開する。オンラインゲーム事業の単一業態。15年4月期第1四半期（14年5～7月）の売上高構成比はネイティブアプリが84.5%、ブラウザゲームが11.4%、パブリッシングが4.1%となっている。

■ 特徴

主力の「ブレイブ フロンティア」は13年7月に配信を開始し、同年10月に韓国版、11月には英語版、14年5月には欧州版を相次いで配信。累計ダウンロード数は14年10月末時点で日本語版408万件、海外言語版1,378万件となっている。海外言語版の売上高比率は14年4月期実績で3割程度だったが、15年4月期第1四半期は44%まで上昇している。

アナリストコメント

■ 定量分析

15年4月期の連結経常損益は12億7,700万円の黒字（前期は1億6,800万円の赤字）を予想。売上高で前期比2.8倍の309億7,200万円を見込んでおり、規模拡大が黒字浮上の原動力となっている。「ブレイブ フロンティア」は拡大を続けており、海外の寄与度向上も期待材料。

■ 定性分析

ヒットタイトルである「ブレイブ フロンティア」を手掛けるソーシャルアプリ開発メーカーとして高い知名度を誇る。東証1部市場に直接上場する可能性もあり、12月のIPOマーケットの中心的な案件となっている。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は450億円。吸収金額が大きく需給面への不安は残るが、東証1部直接上場となる見込みで、個人投資家以外の買い需要も期待される。一方、割高感や売出し株比率の高さはネガティブな材料となる可能性がある。（小泉健太）

■ 類似企業

gumi(3903・東証上場)	予想PER105.4倍 (仮条件上限)
ミクシィ (2121・マザーズ)	予想PER15.1倍
ガンホー・オンライン・エンターテイメント (3765・JASDAQ)	予想PER—

■ 引受証券

野村證券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、SMBC日興証券、マネックス証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
13年4月期(実績)	5,515	—	-1,188	—	-1,343	—	-83.9	—
14年4月期(実績)	11,192	2.0倍	-168	赤縮	-184	赤縮	-10.8	—
15年4月期(会社予想)	30,972	2.8 倍	1,277	黒転	808	黒転	31.3	—

※ 13 年 4 月期から連結決算。14 年 8 月に株式分割（1 株→ 500 株）を実施。13 年 4 月期、14 年 4 月期の EPS は遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
13年4月期	35,892	2,874	1,668	1,368	91.6	57.7	—
14年4月期	41,201	5,531	3,497	2,316	172.0	61.5	—

※ 13 年 4 月期および 14 年 4 月期の BPS は遡及修正

大株主上位（上場前）

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	ジャフコ・スーパーV3共有投資事業 有限責任組合	4,161,000	13.92
2	グリー	3,635,000	12.16
3	國光 宏尚	3,044,500	10.19
4	LINE	2,445,000	8.18
5	WilFund I,L.P.	2,079,000	6.96
6	フジ・メディア・ホールディングス	1,401,000	4.69
7	NEXT BIG THING	1,400,000	4.68
8	DBJキャピタル投資事業有限責任組合	978,500	3.27
9	セガネットワークス	823,000	2.75
10	新生銀行	800,000	2.68

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	國光 宏尚
取締役	川本 寛之
取締役	三川 剛
取締役	山口 真
常勤監査役	梅田 裕一
監査役	池川 穰治
監査役	鈴木 学

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO（※1）レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング（※2）が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO（Initial Public Offering）：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。